

岸田政権の憲法改正攻撃に反撃を

コロナ第6派の米軍由来許さない！

岸田新政権は7日、日米の外交・軍事担当閣僚による日米安全保障協議委員会（2プラス2）の共同発表を行いました。「台湾海峡の平和と安定の重要性を強調」とするとともに「行動を抑止し、必要であれば対処するために協力する」という合意を明らかにしました。

日本共産党の志位和夫委員長が指摘した通りの安倍元首相の「台湾有事は日本有事」という最も戦争につながる危険な軍事力行使の立場を公然と表明したのです。

これまでの自民党政権のなかでも日米協議でのこのような危険な共同声明はありませんでした。

志位氏は13日に、敵基地攻撃能力を保有の道に入っていると批判、相手国を殲滅させなければ、終わらない本格的な戦争に突入する道だと指摘しました。

こうした戦争の道への入り口に入ろうとする危険極まりない状況を止めさせるべく、全国的に憲法改悪反対の運動と合わせて、この危険な戦争の道に入る「敵基地攻撃能力保有」「台湾有事は日本有事」の戦争への道をなんとしてもやめさせましょう。（原）

参議院選千葉選挙区から出馬

さいとう和子氏新年あいさつ

新しい年を迎え、決意新たにがんばります。私は、今年7月の参議院選挙に定数3の千葉選挙区から立候補することになりました。総選挙に続き、みなさまに大変お世話になります。どうぞよろしくお願い致します。

憲法は、日本の国のカタチを示し、私たち国民の権利と自由を明らかにし、政府（権力）をしぼるものです。それを真逆に変えようとしているのが改憲勢力で



昨年12月の「オスプレイいらぬ！」の薬円台公園集会での志位和夫委員長とのツーショット

す。憲法の条文をよく読むと、そこには誰もがより良く生きられるあったかい社会のあり方が描かれています。もう二度と誰の命も戦争の犠牲にはしないという深い思想があふれています。この「憲法を守り、いかす」議席がどうしても必要です。ご一緒に力を合わせようではありませんか。

参院千葉選挙区予定候補
さいとう和子（斉藤和子）

〇〇〇情報いろいろ〇〇〇

★2022年松戸憲法記念日の集い-安田奈津紀さん講演会

日時：2022年5月3日13:00～
場所：松戸市民会館ホール

戦後77年。さきの大戦による多くの犠牲への反省から日本国憲法が制定されました。「二度と武器を、軍隊をもちません。戦争はしません」と誓い合いました。自公



政権は、この平和憲法を改変して戦争ができる方向に舵を切りつつあります。なんとも

この動きを止めるために、私たちの微力を広く数多くあつめましょう。

主催は、松戸憲法記念日の集い実行委員会（太田幸子実行委員長 047-384-4759）、後援・松戸市、同教育委員会、朝日新聞、毎日新聞、千葉日報など。

参加費：資料代として500円（18歳以下無料）。

★全国革新懇シンポ「市民と野党共闘の前進をめざして」開催

日時：2月5日午後1時半～
場所：日本青年館ホテル8F会議室イエロー（東京都新宿区霞ヶ丘町4-1（東京メトロ銀座線外苑前2b出口神宮球場へ徒歩5分））
会場参加は事前申し込み＝全国革新懇事務局03-6447-4334、メール：zenkoku@kacusinkon.orgまで。オンライン配信を予定。



『しんぶん赤旗』のご購読を お願い申し上げます。

スクープ連発の「赤旗」を読みたいという人が党中央委員会に申し込みが相次いでいます。

「しんぶん赤旗」申込は、
松原よし子090-3204-4324
まで。（会議中はすぐには出られませんが、折り返し電話致します）

日本共産党発行
しんぶん赤旗
日刊●月3497円
日曜版●月930円

申し込みが相次いでいます。

空に高く羽ばたいて 行きましょう



丹頂鶴のイラスト



食料品や日用品を運ぶ人たちは19日、千葉県鎌ケ谷市
市民への食料支援に行列
千葉・鎌ケ谷「本当に助かる」

「コロナで困窮する市民を支援しようと、千葉県鎌ケ谷市の「食サポの会」が、市民への食料支援に行列しました。昨年12月22日、鎌ケ谷市「本当に助かる」市民への食料支援に行列しました。約100人の高齢者や子ども連れが訪れました。年配者の女性(左)は食料を手にとりながら、年配者から「助けてほしい」と話していました。

↑「しんぶん赤旗」日刊紙の12月22日付に載った記事
（丸）

革新懇・健康友の会・年金者組合などの方々に「食サポ@鎌ケ谷」による「食サポ@鎌ケ谷」の実行委員会。同時に生活相談会も4組の家族が受けました。

食サポ@鎌ケ谷に約100人
コロナ禍で生活に困っている若者・学生・高齢者の方々のための食材等を無料で提供する「食サポ@鎌ケ谷」が昨年12月19日（日）午後2時からかまがや診療所の駐車場で行われました。「本来なら国や市がやるべきこと。本当にありがたい」などの声も寄せられました。主催は、新日本婦人の会・